

令和6年度 普及活動成果集

「多様な人材が躍動する
魅力ある都市近郊農業を目指して！」



ワンダフルライフ総会



採種部会現地巡回



福岡市れき耕トマト部会現地検討会



キンギョソウ巡回



シャインマスカット栽培基礎講座



和牛一貫肥育農家現地勉強会

福岡県福岡普及指導センター

令和7年3月

は じ め に

福岡・筑紫・糸島地域の農業者並びに関係機関の皆さまにおかれましては、平素から福岡普及指導センターの活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、県では、令和4年3月に見直した「福岡県農林水産振興基本計画」において、目指す方向として、

- 消費者ニーズに対応した生産力やブランド力の強化

- 次代を担う「人財」の育成

- 地産地消といったワンヘルスの推進や環境に配慮した生産の推進

などをお示しすると共に、稼げる農林水産業の実現に向けて、施策に取り組んでおります。

私ども福岡普及指導センターでは、この基本計画に基づき、

- ・優良品種・優良家畜の生産拡大やスマート農業の推進、新品種・技術の普及

- ・新規就農者の確保・定着の促進、女性農業者の活躍促進、経営発展の推進

- ・ワンヘルスや農福連携の推進

などに取り組んでおり、これらの活動内容を農業者並びに関係機関の皆さまに広くご理解頂くために本成果集を作成しました。ご一読いただければ幸いです。

今後とも、管内の農業・農村の発展に向け、私ども福岡普及指導センター職員一丸となって取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

令和7年3月

福岡農林事務所福岡普及指導センター長 笹川 文彦

目次

1 普及活動の成果

【1】環境負荷軽減等の取組支援を通じた持続可能な農業生産体制の構築	1
【2】「地域計画」策定モデル地区における中心経営体等の担い手育成	2
【3】地域の担い手と女性農業者の経営発展支援	3
【4】法人支援及び農業DXの推進	4
【5】れき耕栽培トマトの生産性向上	5
【6】花き産地を担う若手生産者の育成と生産振興	6
【7】若手育成と振興品目による糸島花き産地の活性化	7
【8】「シャインマスカット」新規導入者の一体的支援	8
【9】飼料高騰に耐える新しい酪農家の育成支援	9

2 トピックス

【1】経営計画策定講座を開催	10
【2】ふくおか就農基礎講座を開講	10
【3】糸島稲作経営研究会が名誉賞を受賞！	11
【4】JA糸島普通作資材研修会を実施！	11
【5】スマート農業技術によるイチゴの収量向上を目指して	12
【6】JA糸島胡瓜部会 販売高5億円を達成	12
【7】土壌病害リスクを低減し花きの安定生産につなげよう	13
【8】新規品目「カラー」「ブプレウラム」の作付が増加	13
【9】JA糸島柑橘部会の若手生産者が勉強会を開催	14
【10】『あま伊都』試食宣伝会を開催	14
【11】福岡県肉畜共進会において和牛農家が躍進	15
【12】第8回九州連合ホルスタイン共進会で躍進	15

3 資料一覧

【1】令和6年の気象概況	16
【2】令和6年度の主な品目の生産概況	17
【3】令和6年度の主な展示ほの概要	19
【4】令和6年度 普及指導センター活動情報一覧	21
【5】令和6年度 表彰事業実績(国、県)	23
【6】普及指導センターの活動体制	24

1 普及活動の成果

【1】環境負荷軽減等の取組支援を通じた持続可能な農業生産体制の構築

要約

国による化学肥料使用量の低減目標の設定、令和4肥料年度秋肥価格の大幅上昇及び県による環境に配慮した生産ならびに、ワンヘルスを実践する経営体の育成目標の設定など、農業を取り巻く情勢を踏まえ、化学肥料低減など環境負荷を軽減する様々な「技術検証・実証」等の取組みを行い、持続可能な農業生産体制の構築を図りました。

具体的には、未利用資源を活用した新たな肥料の展示ほの設置、土壌診断結果に基づく施肥指導、生産者団体へのワンヘルス認証制度の紹介及び同認証に係る生産者の取組の支援等を行いました。

その結果、管内の有機入り肥料利用割合が3ポイント増加し、管内の9件の生産者・団体（経営体数643（推定値））がワンヘルス認証を取得しました。

対象の概況

管内販売農家 3,051戸
（管内JA及び生産組織等を通じて支援）

活動の内容

1 化学肥料低減への誘導

- 次の取組みによる働きかけ 18件
- ・環境負荷軽減の啓発を含む講習会等の実施
 - ・環境負荷軽減に係る実証ほ等の設置
 - ・土壌診断結果に基づく施肥指導

2 ワンヘルスの推進

- 次の取組みによる働きかけ 30件
- ・講習会等におけるワンヘルスの紹介
 - ・ワンヘルス認証に係る取組事項の実践の支援
- ①土壌診断結果に基づく施肥指導
 - ②天敵資材による化学農薬の低減
 - ③花育活動における栽培管理の指導

成果

1 化学肥料低減への誘導

- ・有機入り肥料利用割合
12%（R4）→15%（R6）

2 ワンヘルスの推進

- ・ワンヘルス認証を取得した管内の生産者・団体
—（R4）→9件（R6）
- ・ワンヘルスの実践に取り組む管内の経営体数
—（R4）→643経営体（R6）
（推定値）

※県域団体を除く

今後の取り組み

新たな有機入り肥料の実用試験で初期の肥効の不足が見られた品目では、メーカーと連携して肥料の組成を見直し肥効の改善を図ることにより有機入り肥料の更なる利用拡大を図ります。

1 普及活動の成果

【2】「地域計画」策定モデル地区における中心経営体等の担い手育成

要約

国より市町村に対して、令和7年度までに「地域計画」の策定が求められました。普及指導センターは、福岡市、筑紫野市、糸島市の3地区をモデル地区と設定し、「地域計画」策定を支援しました。

策定主体である市を中心にJA等の関係機関と農業者の連携により、モデル地区での「地域計画」は令和7年3月に策定され、今後、市より公告されます。

対象の概況

市町村名	モデル地区	人・農地プラン		耕地面積	実質化 ①	重点 ②	備考
		対象地区	集落名				
福岡市	入部・金武	入部	入部	152ha	●	●	①：プラン実質化取組状況 (令和4年3月末現在)
		金武	金武	233ha			
筑紫野市	山家	山家1区	山家1区	14ha	●	●	②：令和4年度重点実施地区
		山家3区	山家3区	21ha			
糸島市	二大福吉	(糸島市)	二大福吉	448ha	●	●	

活動の内容

○「地域計画」策定支援（R5～6年度）

- ・地域推進会議への参画 2回
福岡農林事務所が開催する推進会議
- ・市策定検討会への参画 10回
市が開催する策定検討会
- ・「目標地図」作成支援 20回
集落単位で作成する「目標地図」の作成を支援

成果

○「地域計画」策定支援

3市に設定したモデル地区の「地域計画」は策定され、10年後の農地の担い手を明確にする「目標地図」も作成されました。

今後の取り組み

モデル地区の農業振興のため、策定された「地域計画」を活用します。

「目標地図」は、定期的に見直すことで、就農希望者の就農候補地の検討や農地集積に役立てます。

1 普及活動の成果

【3】地域の担い手と女性農業者の経営発展支援

～ 中核となる担い手の経営戦略策定と女性農業者の経営参画を推進 ～

要約

地域の担い手の高齢化や資材高騰により、農業を取り巻く情勢は厳しい状況が続いています。そこで、普及指導センターは、地域の中核となる担い手の経営改善目標達成や、ビジネスプランの作成及び実践を支援することにより、各々の経営発展を図りました。また、地域の若手女性農業者で組織するWonderful lifeや女性農村アドバイザーの活動支援を通して、経営参画を促し、地域農業の発展を図りました。

対象の概況

経営体育成支援対象経営体	19経営体
ビジネスプラン作成講座受講生	2名
女性農村アドバイザー	13名
Wonderful life	15名
女性農業者組織（上記を除く）	6組織
若年女性農業者及び認定農業者志向農家	17名

活動の内容

- 1 中核となる担い手の経営改善支援
 - ・ 専門家派遣による支援 5経営体
 - ・ ビジネスプラン作成講座
フォローアップ 2経営体×8回
- 2 女性農業者の経営参画支援
 - ・ 女性農村アドバイザー活動支援 4回
 - ・ Wonderful life活動支援 4回
 - ・ 女性認定農業者育成講座 3回
 - ・ 女性農業者組織活動支援 6組織×随時



女性農業者の視察研修会の様子

成果

1 中核となる担い手の経営発展支援

- ・ 目標達成経営体数
0（R3）→8経営体（R6）
- ・ ビジネスプラン作成農家
—（R3）→5経営体（R6）

2 女性農業者の経営参画支援

- ・ 経営改善計画策定者数
—（R3）→7人（R6）
- ・ 新規女性農業者リーダー数
2人（R3）→10人（R6）

今後の取り組み

経営体育成支援活動により、個別経営体の目標達成やビジネスプラン策定に向けた支援を継続します。

女性農業者については、研修会への農業者の参加を呼びかけ、Wonderful lifeへの新規加入を促します。併せて、女性農村アドバイザーへの認定や女性認定農業者の育成を目指します。

1 普及活動の成果

【4】法人支援及び農業DXの推進

～ 水田農業経営の強化に向けて ～

要約

法人支援について、筑紫地区ではこれまで面談を実施することで各組織の実態や課題を明確にし課題に応じた支援を行ってきました。一方で、糸島地区では経営強化に向けた支援体制が確立できていませんでした。そこで市役所、農協に法人支援体制構築の必要性を呼びかけ、「土地利用型法人支援班」を設立しました。筑紫地区においては、引き続き支援対象組織と面談を行い、課題に応じた経営・技術支援を行いました。

スマート農業の推進について、個別大規模農家を対象とした研修会や実証により農業者の理解が進み、これまでに59台のスマート農業機械やシステムが導入されました。

対象の概況

筑紫地区：7組織
（機械利用組合2組織含む）
糸島地区：8法人
15ha以上の大規模経営体：36戸
（福岡地区3戸、筑紫地区5戸、
糸島地区28戸）

活動の内容

- 1 法人の経営力の強化
- ・土地利用型法人支援班の設置 1地区
 - ・支援班会議の開催 4回
 - ・法人面談 8組織
 - ・現状分析シート作成支援 12法人

- 2 個別大規模農家の技術力向上
- ・研修会の開催 1回
 - ・実証ほの設置 3箇所
 - ・意見交換会の実施 1回



スマート農業研修会の様子

成果

- 1 法人の経営力強化
- ・法人支援体制の構築
1地区（R5）→2地区（R6）
- 2 個別大規模農家の技術力向上
- ・農業DX関連機器導入数
53台（R5）→59台（R6）

これまでに導入されたDX関連機器（台）

直進アシストトラクタ	5
自動運転トラクタ	3
収量コンバイン	6
直進アシストコンバイン	2
直進アシスト田植機	9
自動運転田植機	1
後付け自動操舵	13
ドローン	14
水管理システム	1
経営管理システム	5
合計	59

今後の取り組み

構築した担い手支援組織を活用し、組織面談を行い、組織の現状分析、課題抽出を行い、課題解決に向けた支援を行っていきます。

個別大規模農家の技術力向上については、引き続き実証ほの設置や研修会の開催を計画していきます。

1 普及活動の成果

【5】れき耕栽培トマトの生産性向上

～ 収量向上をめざして ～

要約

JA福岡市では、夏季の高温対策として遮熱剤を活用し、果実品質の改善を行うことで、JA糸島では、現地検討会等で部会全員の栽培状況を共有し、時期に応じた栽培管理を行うことで、収量向上を図りました。

また、タバココナジラミの天敵であるタバコカスミカメの活用や薬剤防除案の作成及び改定、黄化葉巻病の耐病性品種の導入を行うことで、黄化葉巻病・黄化病対策に取り組みました。

対象の概況

JA福岡市元岡礫耕トマト部会
13戸 (5.1ha)
JA糸島礫耕トマト部会
8戸 (3.6ha)

活動の内容

1 生産性の向上

- ・現地検討会 福岡市2回、糸島8回
- ・高温対策検討会 1回
- ・品種検討会 1回
- ・個別面談 1回
- ・デジタルデータ活用勉強会 3回
- ・クラウドストレージの利用によるデータ共有

2 黄化葉巻病・黄化病対策

- ・薬剤防除案の改正 1回
- ・天敵利用技術勉強会 1回
- ・天敵利用技術マニュアルの見直し1回
- ・天敵定着状況調査

福岡市2回、糸島8回



現地検討会の様子

成果

1 生産性向上

- ・平均単収 (R3 → R6)
JA福岡市
21.5t/10a → 20.2t/10a
JA糸島
15.2t/10a → 17.6t/10a

2 黄化葉巻病・黄化病対策

- ・天敵導入農家数
1戸 (R3) → 8戸 (R6)



タバコカスミカメ
放飼の様子



バンカー作物の
クレオメ

今後の取り組み

現地検討会や生育調査結果をオンライン共有することで、生産者の効率的な栽培技術向上を図ります。

また、マニュアルの見直し等、病虫害防除対策への支援も行っていきます。

1 普及活動の成果

【6】花き産地を担う若手生産者の育成と生産振興

～ 伝統ある花き産地の活性化 ～

要約

高い栽培管理能力を持つ花き担い手を育成するため、JA福岡市北崎花き部会青年部を対象に、重点支援対象者を定め、経営目標設定および達成に向けた支援を行いました。また、産地の競争力強化対策として、トルコギキョウの新品種導入を支援しました。

重点支援対象者への個別巡回を通じた経営・栽培指導により、重点支援者10名中9名が目標を達成しました。また、トルコギキョウ（6～8月出荷）については、関係機関と共に新品種導入に取り組んだことにより、新たに2戸の生産者が新品種を導入するなど、作付け品種の見直しが進みました。

対象の概況

JA 福岡市北崎花き部会	72戸
うち	
北崎花き部会青年部	13名
うち重点支援対象者	10名
トルコギキョウ生産者	15名

活動の内容

1 若手生産者等の重点支援

・目標確認	4名×1回
・巡回指導	10名×8回
・実績検討	4名×1回
・青年部研修会	1回

2 トルコギキョウの新品種導入

・品種展示ほ（品種特性把握）	1か所
・個別推進	8名×1回



トルコギキョウ品種展示ほの様子

成果

1 若手生産者等の重点支援

- ・目標を達成した重点支援対象者
7名（R5）→9名（R6）

R6年に達成した内容

「新品種の導入」	1名
「土壌病害発生率の低減」	1名

2 トルコギキョウの新品種導入

- ・新品種導入者数
4戸（R5）→6戸（R6）



青年部研修会の様子

今後の取り組み

重点支援対象者10名中、目標を達成していない1名の生産者に対し、課題を再度整理するなど目標達成に向け支援していきます。トルコギキョウについては、土壌病害発生率の更なる低減と夏期の切り花品質向上対策に取り組めます。

1 普及活動の成果

【7】若手育成と振興品目による糸島花き産地の活性化 ～ 花きの経営力強化に取り組む ～

要約

生産者の高齢化が進む糸島花き産地を維持・発展させていくためには、具体的な目標に向けた経営を営む若手生産者の育成と特色ある花き品目の振興が重要です。

このため、若手生産者の中から重点支援対象者を選定し、個別目標の策定・達成支援を行いました。また、冷蔵苗を用いたタラスピの9～11月出荷量の増加に取り組みました。

この結果、販売金額目標の達成や先進技術の導入など個別目標の達成を通じ、若手生産者の育成につながりました。さらに、タラスピは9～10月共選出荷本数が過去最高を記録しました。

対象の概況

JA糸島花き部会	124名
うち若手生産者（45歳未満）	24名
うち重点支援対象者	9名
（クルクマ6名、キク3名）	

活動の内容

1 若手生産者等の経営改善

（1）クルクマ

- ・経営目標設定支援 6名×1回
- ・巡回指導 6名×8回
- ・実績検討 6名×1回

（2）キク

- ・巡回指導 3名×4回

2 タラスピの安定生産支援

- ・栽培講習会 1回
- ・現地検討会 1回



タラスピ現地検討会の様子

成果

1 若手生産者等の経営改善

（1）クルクマ

- ・販売目標を達成した重点支援対象者 3名（R5）→4名（R6）

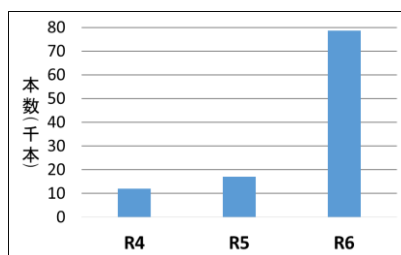
（2）キク

- ・目標を達成した重点支援対象者 2名（R5）→3名（R6）

R6は先進技術の導入等を支援し達成

2 タラスピの安定生産支援

- ・タラスピの生産量（9～10月） 12千本（R4）→78千本（R6）



9～10月タラスピ出荷本数の推移

今後の取り組み

重点支援対象者9名中、目標を達成していない2名の生産者に対し、課題を再度整理するなど目標達成に向け支援していきます。タラスピについては、さらなる作付面積の拡大と栽培技術向上支援に取り組めます。

1 普及活動の成果

【8】「シャインマスカット」新規導入者の一体的支援 ～ 技術力の定着・向上を目指して ～

要約

近年、福岡普及指導センター管内において、経営を補完する一品目として「シャインマスカット」を新規導入する事例が増加しています。これらの新規導入者は、JA等の生産組織に属していないため、適期に適切な栽培指導を受けることができない状況にありました。そこで、「シャインマスカット」新規導入者の技術力の定着・向上を目的に、今年度から栽培講座の開催や巡回指導等により、一体的な栽培支援を行いました。

その結果、肥培管理や結実管理が適切に行われ、樹形が完成した園と目標収量（1.4t/10a以上）を達成する園が増加し、技術力の向上が見られました。

対象の概況 (R6)

【糸島市、福岡市】
「シャインマスカット」新規導入者
(平成30年度～令和5年度)
14戸 1.2ha

活動の内容

- 1 適正な樹体育成に向けた重点支援
- ・巡回指導 各戸×7回
 - ・栽培基礎講座の開催 2回
 - ・管理情報の発信（LINE） 3回
- 2 単収向上に向けた重点支援
- ・着果管理講座の開催 3回
 - ・管理情報の発信（LINE） 3回
 - ・スマート機器の活用 4回
 - ・見本樹設定 5戸



栽培基礎講座の様子

成果

- 1 適正な樹体育成に向けた重点支援
- ・樹形完成率※
(R5) 20.0%→(R6) 42.9%
- ※樹形完成
⇒園全体で主枝が概ね目標の長さ
に到達し、主枝全体に芽座が配置
できた状態。



樹形が完成した園地の様子

- 2 単収向上に向けた重点支援
- ・定植後3年以上対象 (R6：6戸)
1.4t/10a以上の戸数
(R5) 1戸→(R6) 4戸

今後の取り組み

「シャインマスカット」栽培手引きを配布し、支援対象者の技術の定着を図ります。

また、今年度に引き続き、栽培講座や支援対象者の栽培状況に合わせた巡回支援を行います。

1 普及活動の成果

【9】飼料高騰に耐える新しい酪農家の育成支援

～ 第三者継承による新規就農、ソフトクリームの製造販売開始 ～

要約

購入飼料価格高騰に対応するため、耕畜連携による自給飼料の面積拡大、効率的な生乳生産のためのゲノミック評価を活用した乳牛の改良、生乳の有利販売に向けた乳製品製造等6次産業化に対する支援を行った結果、青刈りとうもろこし等の面積拡大、ゲノミック評価利用者の増加、自家産生乳を用いたソフトクリーム販売が開始されました。

また、第三者継承による新規就農酪農家への技術向上支援、第三者継承予定者への就農支援を行い、新規就農者の技術向上及び新たに1戸の新規酪農家が誕生しました。

対象の概況

管内酪農家	34戸
うち 自給飼料生産農家	27戸
第三者継承就農者	1戸
第三者継承予定者	1戸

活動の内容

- 飼料作物面積拡大
 - 耕畜連携に係る会議 2回
 - 展示ほ（害虫対策等）の設置 4カ所
- 新規就農者の技術向上
 - 個別目標設定支援 2回
 - 巡回指導 7回
- 第三者継承支援
 - 新規就農計画作成支援
 - 経営発展支援事業計画作成支援等
- 6次産業化支援
 - 6次産業化事業計画作成支援等



巡回指導の様子

成果

- 飼料作物面積拡大 17ha増
- 新規就農者の技術向上
 - 1戸の農家が個別年度目標を達成
- 第三者継承支援
 - 宗像市において、第三者継承により新規酪農家が1戸誕生
- 6次産業化支援
 - 糸島市の酪農家が、乳製品製造施設とキッチンカーを導入し、自家産生乳を使用したソフトクリームの販売を開始



ソフトクリーム販売の様子

今後の取り組み

引続き、新規就農酪農家の技術向上、経営確立の支援、6次産業化等の新たな試みについての支援を行っていきます。

【1】経営計画策定講座を開催

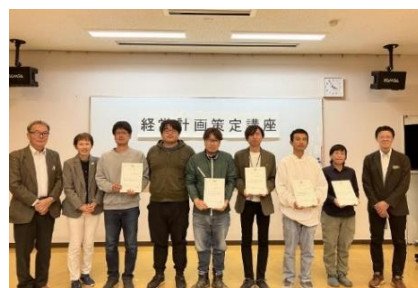
～若手農業者の経営力向上を目指して～

地域農業の発展のためには、若い農業者が早い時期から経営者としての視点を持つことが重要です。そこで、各々の経営の現状を分析し、10年先を見据えた長期の経営戦略を立てるとともに、理想とする農業経営を実現することを目的に、全3回の経営計画策定講座を開催しました。従来はJA系島青年部を対象としていましたが、今年度は管内全域の若手農業者に対象を広げて実施しました。

講座では、専門家による講演、ワークショップによるSWOT分析の実施、普及員による伴走支援を経て、ビジネスプラン（経営計画）を作りあげました。また、完成した経営計画の発表を行い、地域の指導農業士や専門家から助言を頂き、計画をブラッシュアップしました。



ビジネスプラン策定者の発表の様子



発表者 集合写真

【2】ふくおか就農基礎講座を開講

～新規就農者等の農業基礎技術習得を支援～

新規就農者等の農業技術および経営管理手法の早期習得を目的に、ふくおか就農基礎講座を開講しました。本講座は、「植物の生理生態」、「土づくりと肥料」、「作物の病害虫とその防除」、「経営管理の基本」、「先輩農業者に学ぶ（現地ほ場視察）」の全5回（7～11月）で構成され、第1～4回目の講座終了後には、品目毎の個別相談会を実施しました。第5回目は管内の農業法人を視察し、先輩農家から、「経営状況を数字で見ることが大事」、「新規就農者は理念にとらわれずに、第一に経営を成り立たせることが大事」などの考え方を話していただきました。

受講者からは、「どの品目を栽培する場合でも役に立つ内容であった」「初めて聞く内容が多く参考になった」といった声が聞かれました。



講座の様子



視察研修の様子

【3】糸島稲作経営研究会が名誉賞を受賞！

～設立約40年の歴史に学ぶ～

令和6年11月2、3日、第24回福岡県農林水産祭が開催され、糸島稲作経営研究会は名誉賞（農業部門）を受賞しました。令和7年度で設立40周年を迎える糸島稲作経営研究会は、毎年ほ場巡回による研究会員同士の生育情報共有や講師を迎えた研修会を積極的に実施し、糸島の地域農業発展に貢献しています。また、福岡県の育成品種を率先して試験栽培し、普及推進を図るなど、福岡県内の水田農業の発展に大きく寄与したことが評価されています。

糸島稲作経営研究会には、井田磯和研究会長をはじめ過去に、農林水産大臣賞を受賞した研究会員が数名在籍し、研究会員同士の栽培技術の研鑽が活発に行われています。



受賞者



県知事と研究会役員

【4】JA糸島普通作資材研修会を実施！

～栽培技術向上を目指して～

抵抗性を獲得した害虫の出現や頻発する異常気象の影響による収量・品質の低下など、普通作物栽培において様々な問題が生じています。

そこで変化し続ける栽培環境に対応した支援を行うため、11月13日、JA糸島営農センターにて普通作資材研修会を実施しました。研修会では資材メーカー7社からJA糸島営農部と福岡普及指導センターの職員が資材の説明を受け、より環境負荷の少ない肥料や、近年問題になっている病害虫及び雑草の防除に有効な薬剤等について情報を得ることができました。研修会で得た情報は、講習会や栽培上の相談対応、栽培ごよみ等に活用し、高品質・高収量な農作物の安定生産へ向けて役立てていきます。



農薬感受性の低下が問題となっている
ハスモンヨトウ



研修会の様子



不稔籾や斑点米の原因となる
イネカメムシ

【5】スマート農業技術によるイチゴの収量向上を目指して ～CO2局所施用技術の現地実証を実施～

JA糸島いちご部会は、スマート農業技術(CO2局所施用)の実証試験を行っています。

この技術はCO2をイチゴの株元付近に施用する方法で、ハウス全体に施用する従来の方法よりも株元のCO2濃度は高くなり、増収効果が期待できます。また、CO2の濃度制御装置はハウスの換気装置と連動しており、換気中にはCO2が施用されないため、無駄の少ない施用方法です。

今回現地実証を行ったところ、生育が旺盛になり、果実品質も良好になるといった結果がみられました。引き続き、収量およびコストに対する効果を検証していきます。



CO2局所施用装置



実証ほ場の様子

【6】JA糸島胡瓜部会 販売高5億円を達成 ～産地の更なる発展を目指して～

糸島地区は県内最大の施設キュウリ産地であり、JA糸島胡瓜部会では、生産者24名で1年を通じてキュウリの栽培を行っています。同部会は、若手の生産者や経営規模の大きい生産者も多く、成長が著しい部会の一つとなっています。

近年、キュウリ栽培において、夏季の高温やウイルス病の影響により生産者にとって厳しい栽培条件となってきています。しかしながら、同部会では、遮光剤の使用や定期的な防除といった部会員の努力や普及指導センターによるウイルス病対策の指導などによって販売高を伸ばしています。その結果、平成27年産に販売高4億円を突破し、8年後の令和5年産には5億円を突破しました。



5億円達成記念大会の様子



生育中のキュウリ

【7】土壌病害リスクを低減し花きの安定生産につなげよう ～JA福岡市北崎花き部会でピクリン処理試験を開催～

近年、草花類で問題となっている土壌病害の被害低減を目的に、令和6年度春出しトルコギキョウほ場を対象に、土壌病害対策の実証試験を行いました。

実証試験では、畝立て前のクロルピクリン液剤処理区と、畝立て後の土壌くん蒸剤クロピクフローの灌水チューブを用いた処理区、クロルピクリン錠剤処理区の比較により、畝立て後のクロルピクリン錠剤処理で土壌病害の予防効果が高く、他の処理区と比較してコストを安く抑えられることが明らかになりました。

この結果を受けて、今後は土壌病害対策として畝立て後のクロルピクリン錠剤処理を行う予定です。



開花期のトルコギキョウの様子



畝立て後土壌消毒の様子

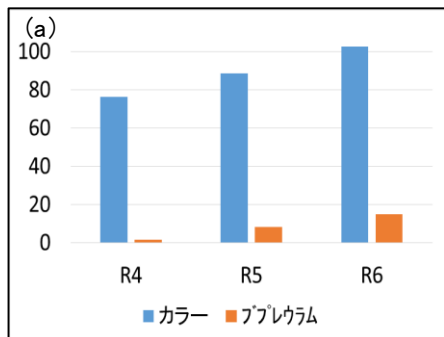
【8】新規品目「カラー」「ブプレウラム」の作付が増加 ～新たな花き品目の産地を育成～

草花の複合経営において、収益性の高い品目を導入することは経営上のリスク分散のために重要です。近年の原油価格の高騰を受け、低温耐性のある冬春出荷の草花の導入および現地に適した栽培方法の確立が課題となっていました。

このような中、畑地性カラーとブプレウラムが12～2月の低温期にも暖房経費があまりかからない品目として注目されています。

そこで、普及指導センターはこの2品目について、カラーの栽培マニュアル作成や品種展示ほの設置、ブプレウラムの定植時期や、寒冷紗被覆期間等の検討を行いました。

その結果、出荷ロスが減り、需要期出荷が可能になったことで、両品目とも作付面積が増加しました。



作付面積の推移

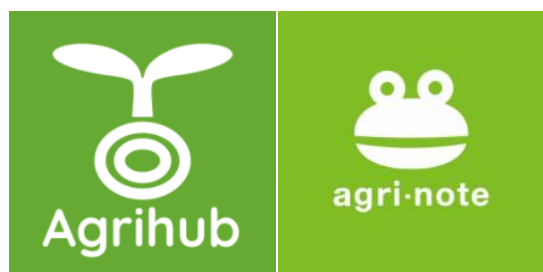


開花の様子(左:カラー 右:ブプレウラム)

【9】JA系島柑橘部会の若手生産者が勉強会を開催 ～農作業管理アプリと自動かん水装置について学ぶ～

JA系島柑橘部会の若手生産者グループは、年に1回、技術力や経営力向上を目的とした勉強会を開催しています。今年度は、「農作業の管理にもっとアプリを活用しよう！」と題し、農作業管理アプリと、タブレット端末で操作できる自動かん水装置の勉強会を行いました。

当日は、普及指導センター職員が農作業管理アプリと自動かん水装置について説明したほか、アプリのひとつである『アグリノート』について、提供元の担当者とリモートで接続し、実際の操作画面を見ながらアプリの説明を受けました。現在、手書きで記録をつけている生産者が大半ですが、「アプリで記録することで、データを活用しやすい」という説明を受け、勉強会後は、「農作業管理アプリを使っていこうと思う」などの前向きな声が聞かれました。



今回勉強した農作業管理アプリ



勉強会の様子

【10】『あま伊都』試食宣伝会を開催 ～更なる認知度向上と消費拡大を目指して～

「BKシードレス」は、甘みが強く食味の良いブドウで、JA系島ではBKシードレス研究会(6戸)が精力的に栽培しています。8月中下旬頃から伊都菜彩のみで販売されており、秀品には『あま伊都』という商品名がつけられます。販売開始から7年目を迎え、『あま伊都』の更なる認知度向上と消費拡大を目的に、伊都菜彩にて試食宣伝会が開催されました。試食宣伝会では、研究会長、JAおよび普及指導センター職員が、来場者に『あま伊都』の説明を行いながら、サンプルを試食してもらいました。『あま伊都』の認知度は低かったものの、「食味がとても良かった」、「ぜひ買ってみたい」などの好意的な声が聞かれました。

研究会では、引き続き試食宣伝会を行い、『あま伊都』の更なる認知度向上と消費拡大を目指して活動していきます。



宣伝ボード



収穫直前の果房

【11】福岡県肉畜共進会において和牛農家が躍進 ～和牛の部にて金賞・銅賞、記念式典にて功労者表彰～

令和6年10月4日、JA全農ミートフーズ(株)において、第60回福岡県肉畜共進会が開催されました。この共進会は、県内の畜産農家が肉畜の肥育技術の成果を競うものであり、毎年開催されています。管内からも多数の出品があり、和牛の部において、筑紫野市の(有)三宅牧場が金賞(農林水産大臣賞)、福岡市の毛利農場が銅賞を受賞しました。

また、共進会后に60回目の節目を記念して開催された記念式典では、糸島市の(株)中原牧場の中原氏が長年にわたり博多和牛を支え、肉用牛の振興に貢献してきたことから、功労者表彰を受賞しました。

生産者の日々の努力が実を結んだすばらしい共進会となりました。



三宅牧場の表彰(右3人)



中原氏の表彰

【12】第8回九州連合ホルスタイン共進会で躍進 ～九州1位！グランドチャンピオン受賞～

11月3日に「第8回九州連合ホルスタイン共進会」が熊本県家畜市場で開催され、九州・沖縄県から12部門に計125頭が出品されました。この共進会は、5年に1回行われる全日本ホルスタイン共進会(全国大会)の前哨戦として開催され、乳牛が健康で長持ちするために必要な体格や乳房の形などの改良度合いを競い合いました。

管内からは、4戸の酪農家が出品し、第4部(未経産/16か月以上19か月未満)で中村毅さん、第12部(経産牛/5歳以上)で松永慎也さんが1席を獲得しました。また、松永さんの第12部の同牛は大会最高位の「グランドチャンピオン」に輝きました。

日々の改良の成果が発揮された本大会、令和7年10月に開催される「第16回全日本ホルスタイン共進会北海道大会」でもさらなる飛躍が期待されます！



グランドチャンピオンの牛



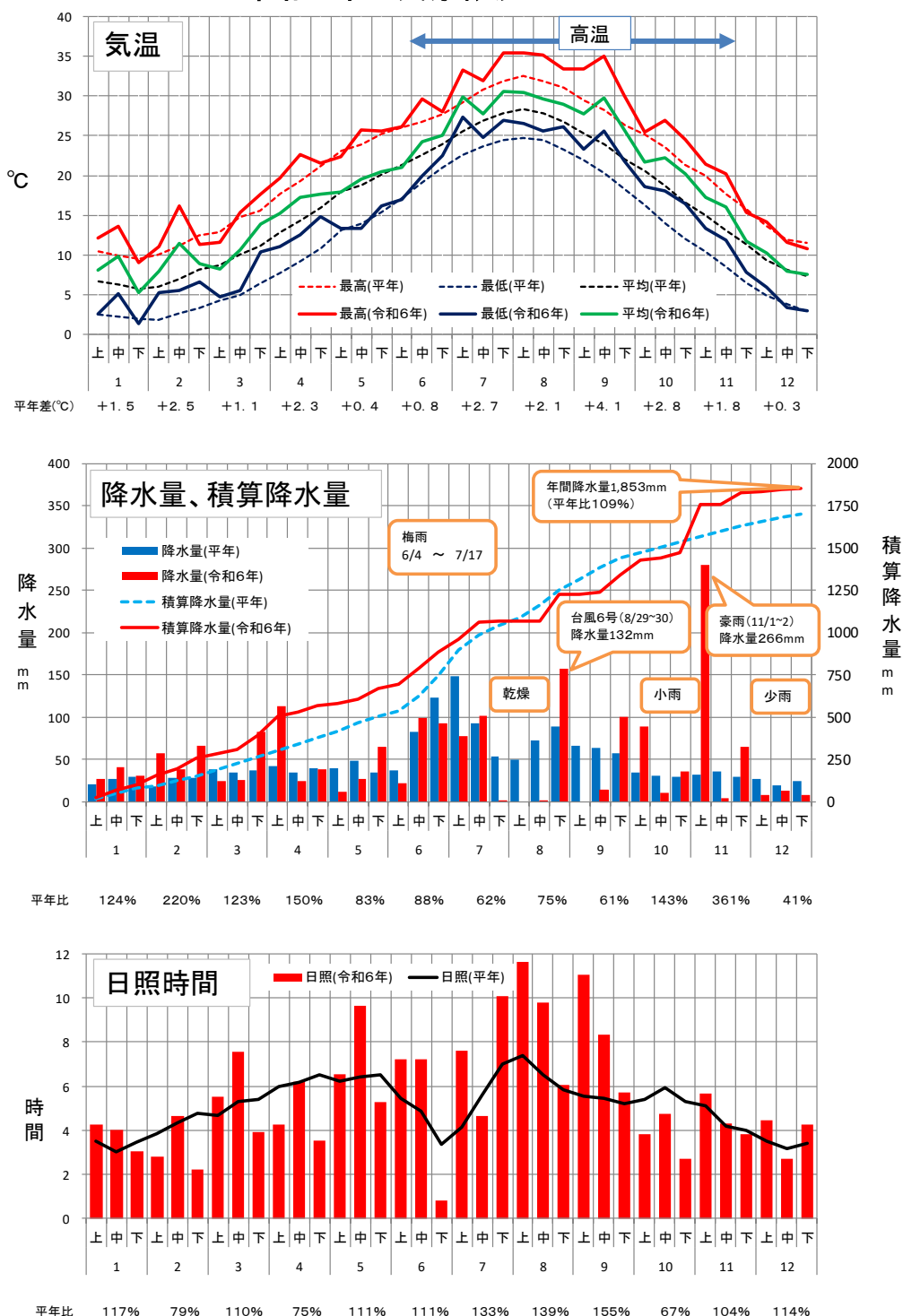
受賞者 集合写真

【1】 令和6年の気象概況

令和6年の平均気温は18.3℃（平年差+1.9℃）であり、降水量1,853mm（平年比109%）、日照時間2,035hr（平年比110%）でした。

7月下旬から9月中旬までは旬最高気温が33℃を連続して超え、8月下旬の台風6号の影響を除くとほとんど降雨がなく、これまでにない高温乾燥の環境となりました。

令和6年の気象概況



グラフは前原アメダス（糸島市）のデータをもとに作成

【2】令和6年度の主な品目の生産概況

水 稲 高温や台風10号の影響による品質低下

水稻作付面積は3,385ha（福岡994ha、糸島1,757ha、筑紫634ha）となりました。遅植えのものは6月下旬の日照不足により茎数が不足気味になりました。夢つくしや山田錦等で高温不稔、ヒノヒカリでは台風10号の影響で内穎褐変病が発生し、品質低下につながりました。どの品種においても登熟期の高温による白未熟粒が散見されました。収量については平年に比べやや少ない傾向となりました。

麦 類 断続的な降雨により生育は抑制され病害も発生

令和6年産麦類の作付面積は1,408ha（大麦471ha、小麦673ha、裸麦264ha）となりました。播種後は順調に生育していましたが、1月の断続的な降雨により麦踏みや土入れなどの管理作業ができないほ場が散見されました。登熟期から成熟期の降雨により湿害や病害、充実不足が発生しました。多雨の影響で赤かび病に加え大麦の網斑病、小麦の黄斑病が発生し、収量は概ね平年の7割程度になりました。

大 豆 長期間の乾燥やカメムシ類の影響により減収

大豆の作付面積は115.3ha（福岡0.8ha、糸島53ha、筑紫61.5ha）となりました。今年度は梅雨の合間に適期播種したほ場と梅雨明け後播種のほ場とで生育量に差が生じました。7月下旬から8月下旬までの長期間の少雨傾向により水分ストレスが発生し、生育が抑制されました。台風10号の影響で一部ほ場において倒伏が発生しました。長期間の乾燥と短期に集中した降雨、カメムシ類の発生等により青立ち株が発生し、収量は10aあたり糸島60kg、筑紫115kg程度（2月時点）になりました。

イチゴ 高温の影響を受けて、小玉傾向

6月下旬の断続的な雨、7月上旬以降は高温で推移したため、根痛みの発生が多く、小ぶりの苗となりました。梅雨入り前から高温が続いたため、例年よりも炭そ病が多く発生しました。9月になっても最高気温は30℃を超え続け、花芽分化は9月末でも普通作型の未分化が多くありました。定植以降も、2番果房対策の実施にも関わらず、草勢は強く、展葉も早い傾向でした。出荷は、例年よりも1週間程度早く、小玉傾向となりました。

露地野菜 高温の影響でヨトウ類が多発

7月中旬以降、播種が開始されましたが、高温の影響により発芽不調や発芽のバラつきが見られ、定植が遅れるほ場がありました。定植後以降も高温・乾燥傾向で、活着不良や生育の遅れが見られました。11月2日の大雨により、一部ほ場が冠水し、生育不良が発生しました。病害虫では、ヨトウ類の発生が多く見られました。

カンキツ 夏季の高温・乾燥や害虫被害により生産量が減少

発芽期は平年並みでしたが、3月下旬から4月の高温により、開花は平年比で3～4日早くなりました。夏季の少雨により、果実肥大はやや鈍かったものの、秋季の降雨により、中晩柑の肥大は平年並み～やや大きくなりました。着色は、秋季の高温により平年より遅く、ウンシュウミカンでは着色基準を下げた集荷などで対応しました。果実品質は、ウンシュウミカンでは高糖度で食味良好、中晩柑はやや低糖度、低酸度の傾向でした。

病害虫では、梅雨前および9月下旬以降の乾燥により、ハダニが多発しました。また、秋季の高温により、9月以降にアザミウマ類やヤガ類などの害虫被害果が多く見られました。

その他、夏季の高温・乾燥により、ウンシュウミカンを中心に中晩柑でも日焼け果が多発したほか、8月の台風による降雨により、ウンシュウミカンで裂果が多発しました。

ブドウ 結実は良好、夏期の高温乾燥により着色が遅延

開花は平年よりもやや遅れたものの、結実全般に良好でした。着色は、日照に恵まれ順調に開始したものの、7月上旬以降の高温で着色の進行が鈍化し、収穫の遅延も見られました。糖度、酸度は、概ね平年並みでしたが、シャインマスカットでは、糖度の蓄積が遅い傾向が見られました。

病害虫では、一部で灰色かび病、ハダニ、アザミウマによる被害が見られました。

クルクマ 夏季の高温により生産量が減少

3月の低温により地温が上がらず、出芽および一番花の開花が遅れました。7～9月の高温により、日中のハウス内気温が40℃以上に達し、採花本数が2～3割減少しました。10月上旬に生育適温となり、開花が増加しました。

トルコギキョウ 夏季は高温による品質低下、秋季は開花集中で単価下落

3月下旬～4月上旬にかけて曇雨天が多く、輸送中の花傷みが頻発しました。4～5月出し作型の斑点病も3年ぶりに糸島で発生しました。7～10月出し作型は高温による開花前進、およびそれに伴う短茎開花、枝数の減少が発生しました。11～12月出し作型も開花前進し、10～11月の出荷本数は前年を大きく上回りましたが、出荷が集中し、単価は大きく下落しました。

電照ギク 夏季～秋季は高温で開花遅延、冬季はほぼ順調な出荷となる

8月盆前出し作型は高温障害により開花遅延が発生しました。9月彼岸出し作型も同様に開花が遅れました。10月以降は花芽が順調に発達し、12月年末～1月成人式に合わせて需要期出荷を行うことができました。

【3】 令和6年度の主な展示ほの概要

係名	対象作物	課題名	設置場所	要約
水田農業	水稻	環境にやさしい肥料の現地適応性	福岡市	マイクロプラスチックを含まない基肥一発肥料である、e・green(23-8-8)の現地適応性試験を昨年産に引き続き実施した。玄米中タンパク含有率は慣行肥料と比較して低い(食味がよい)傾向にあった一方、生育後期の窒素不足で収量が少ないため、改善が必要である。
水田農業	水稻	環境にやさしい肥料の現地適応性	筑紫野市	マイクロプラスチック含有量が慣行の肥料より少ないコート肥料の現地適応性試験を、昨年産に引き続き実施した。結果は慣行肥料と収量・品質ともに大きな差はなく、今後現地での普及が見込まれる。
野菜	シュンギク	夏季高温対策	福岡市	被覆資材（青天張Cタイプ）を被覆することで、高温抑制効果の調査を行った。草丈では遮光資材による影響はほとんど認められなかったが、SPAD及び発芽率では青天張の方が有意に高かった。
野菜	トマト	夏季高温対策	福岡市	遮熱資材（レディヒート）の2度塗りを行い、ハウス内温度を低下させることで、夏季の秀品率の向上を図った。
花き	露地ギク	太陽光パネルを活用した黄色LEDによるヤガ類防除の検証	糸島市	太陽光パネルを活用した黄色LED「レピガード」は、3日程度の曇雨天であれば、夜間の照射に支障がなかった。当該資材の導入によりヤガ類の被害が軽減され、農薬散布回数を削減できると期待される。
花き	クルクマ	遮熱資材による高温対策の検証	糸島市	Q3ホワイトのハウス天井への塗布により、ハウス内の温度および日照を制限し、クルクマの葉・苞焼けを軽減でき、開花期の草丈伸長も旺盛になることが明らかになった。

係名	対象作物	課題名	設置場所	要約
花き	ストック	再生リンを利用した肥料e-greenの施肥試験	福岡市	e-green（14-2-12）の現地適応性試験を実施した。慣行肥料と比較して生育に影響がなく、肥料代を低く抑えられることが明らかになった。切り花品質への影響は現在調査中。
果樹	かんきつ	温州みかんおよび中晩柑のサンデ被覆による日焼け軽減効果の検証	糸島市	7月下旬に「早味かん」および「せとか」に果実袋サンデを被覆し、日焼け果軽減効果の検証および10aあたりのコスト試算を行った。「早味かん」は慣行と比較しコストはかかるものの、日焼け果率が約3%低く、「粗収入-コスト」金額は、約9千円高かった。「せとか」は慣行と比較し、日焼け果率が高くなり、コストも高かった。
果樹	かんきつ	気象観測装置の設置による気象データの活用	福岡市	最寄りのアメダス地点データからの農地環境の推定を行うため、能古島で「甘夏」栽培ほ場における気温の自動観測を実施中。
果樹	ブドウ	「シャインマスカット」の副穂利用と開花前植調剤処理による房づくりの省力化	福岡市	開花前の花穂へのフルメット液剤、ジベレリン粉末の散布と副穂を用いる花穂整形方法の組み合わせによる省力化の検証を行った。開花前のジベレリン処理による摘粒時間の短縮効果が示唆された。

3 資料一覧

【4】令和6年度 普及指導センター現地活動情報一覧

No.	表題	執筆係名
1	「シャインマスカット」栽培講座を開催！ ～新規導入者の栽培技術習得を支援～	果樹
2	JA糸島大豆部会で播種前講習会を開催しました！ ～大豆栽培では土壌水分が重要！～	水田農業
3	クルクマが出荷を開始しています ～新規栽培者を加え日本一を目指す糸島のクルクマ～	花き
4	元気つくし研究会が地区別講習会を開催！ ～糸島産「元気つくし」を、イネカメムシ対策でもっと元気に！～	水田農業
5	ふくおか就農基礎講座が開講しました！ ～新規就農者等の農業基礎技術習得を支援～	地域
6	JA糸島アスパラガス部会新規就農者勉強会を開催 ～新規就農者の栽培管理技術向上を支援～	野菜
7	グリーンネット福岡が総会と研修会を開催 ～福岡地域の指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザー及びOBが集合～	地域
8	筑紫野市地産地消マルシェが開催！ ～市農業女性グループ協議会員が生産した農産物・加工品を直売～	地域
9	福岡市農業指導センター農産専門班視察研修を開催 ～良食味米生産に向けた取り組みについてまなぶ～	水田農業
10	酒米部会穂肥現地講習会の開催 ～高品質な山田錦生産を目指して～	水田農業
11	JA筑紫ブロッコリー育苗巡回を開催 ～良質な苗を作るために～	野菜
12	福岡市青年農業者連絡会が消費者との交流会を開催 ～若手農業者と消費者の交流～	畜産
13	都忘れの里 糸島 ～日本で唯一の都忘れ共販部会～	花き
14	「ふくおか就農基礎講座」視察研修会を開催！ ～先輩農家の経営管理や栽培技術を学ぶ～	果樹
15	女性農業者の3地区合同視察研修会を実施 ～福岡、飯塚、田川地区の女性農業者が飯塚氏の農業者2戸を訪問～	地域

3 資料一覧

No.	表題	執筆係名
16	JA糸島で『労務管理研修会』を開催 ～雇用について必要な法律知識を学ぶ～	果樹
17	JA糸島みかん『紅まる君』出荷目合わせ会 ～高畝栽培「山下紅早生」がいよいよ出荷開始～	果樹
18	タラスピの出荷が増えています ～需要期に合わせた計画栽培で安定出荷を目指す～	花き
19	JA福岡市元岡礫耕とまと部会が現地研修会を開催！ ～厳寒期に向けた管理について～	野菜
20	第一回イチゴ栽培基礎講座開催！ ～今後の管理のポイントとベテランのノウハウを学ぶ～	野菜
21	⑧ 博多あまおう、出荷中！ ～JA糸島いちご部会、地区別講習会を開催～	野菜
22	JA福岡市春菊部会研修会を開催！ ～土壌診断結果を活用し、高収量・高品質を目指す～	野菜
23	JA糸島ハウスなす部会現地検討会を開催 ～厳寒期に向けた管理について～	野菜
24	JA糸島柑橘部会若手生産者が勉強会を開催 ～農作業の管理にもっとアプリを活用しよう！～	果樹
25	スマート農業研修会を開催 ～農作業の省力化を目指して～	水田農業
26	JA福岡市いちご部会栽培講習会を開催！ ～匠のパック詰めのテクニックと厳寒期の管理ポイントを学ぶ～	野菜
27	地域の土地利用型担い手が先進農家に学ぶ ～みずほファームと意見交換会を実施～	水田農業
28	先進的法人に学ぶ組織運営 ～集落営農組織の経営安定を目指して～	水田農業
29	豆腐づくり研修会を開催！ ～失われつつある豆腐づくりの技術伝承を目指して～	地域
30	県青年農業士福岡支会の視察研修会を開催 ～青年農業士の交流と多様な農業経営について学ぶ～	地域

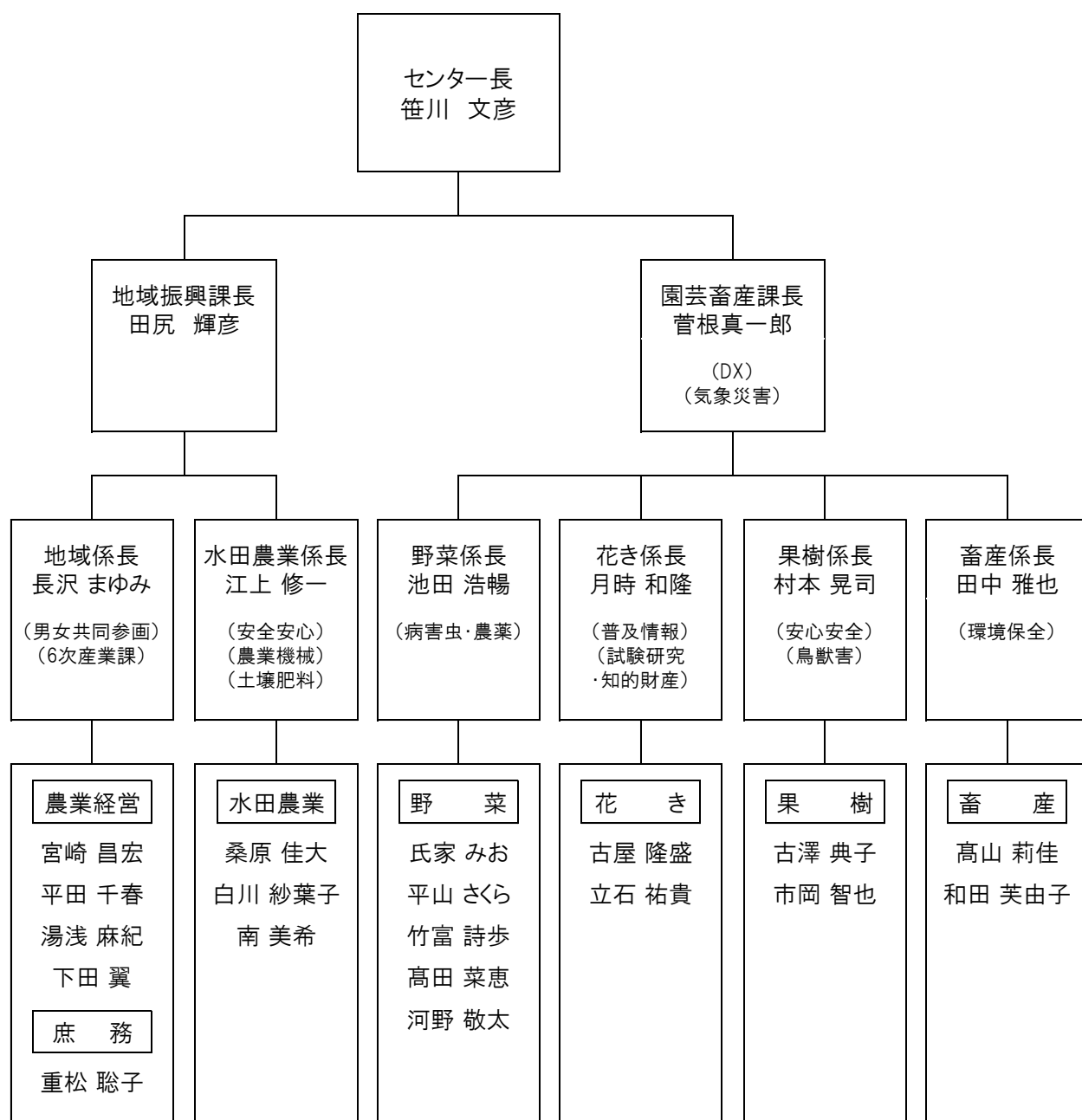
「活動情報」の内容は、福岡県ホームページの出先機関（福岡普及指導センター）に掲載しています。

3 資料一覧

【5】 令和6年度 表彰事業実績（国、県）

表彰事業名	部門（品目）	賞区分	受賞者名	市町村
福岡県 農業指導功労者表彰			牛尾光隆	福岡市
第24回 福岡県農林水産まつり	水稲	農林水産名誉賞	糸島稲作 経営研究会	糸島市
福岡県 花き品評会技術・ほ場の部	夏秋咲きギク	福岡県知事賞	樗木正信	糸島市
福岡県 花き品評会	産物の部	福岡県知事賞	富田幸治	福岡市
第60回 福岡県肉畜共進会	和牛の部	金賞（農林水産大臣賞） 銅賞	三宅 涼 毛利亮介	筑紫野市 福岡市
第8回 九州連合ホルスタイン共進会	未經産牛 経産牛	第4部 1席 グランドチャンピオン・ シニアチャンピオン 第12部 1席	中村 毅 永松慎也	福岡市 糸島市

【6】普及指導センターの活動体制



※畜産係は広域活動(北筑前普及指導センター管内を含む)

※()は担当窓口

班活動体制

①センター内運営事項における推進班

青年就農者等支援班

普及情報推進班

安全・安心推進班

経営体育成推進班

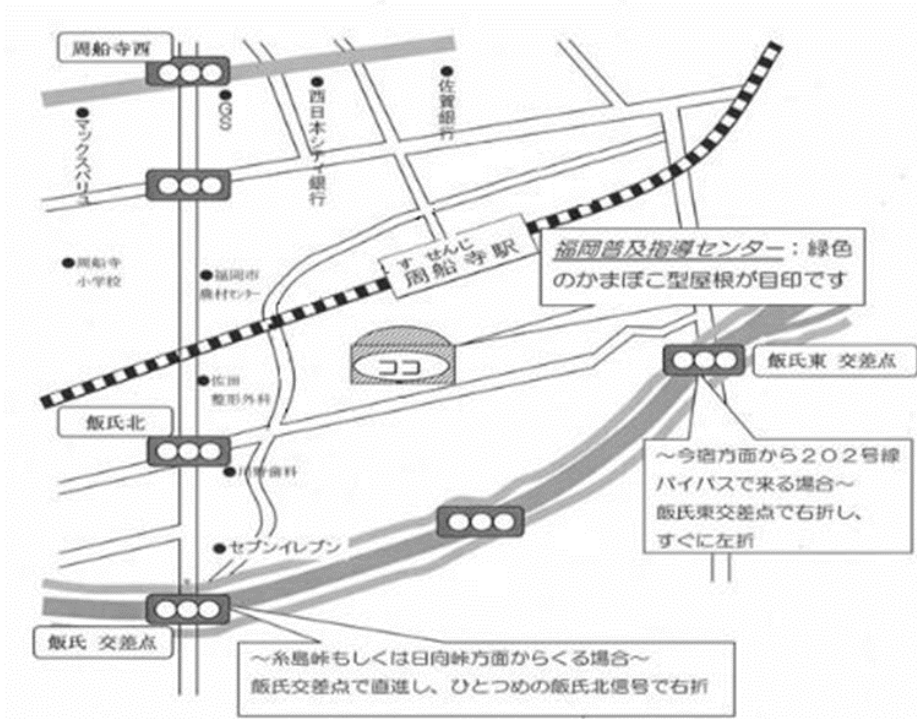
②地域指導班

福岡班(福岡市)

筑紫班(筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川市)

糸島班(糸島市)

福岡普及指導センターへのアクセス



福岡県行政資料

分類番号 PA	所属コード 4703119
登録年度 06	登録番号 0001

福岡県福岡農林事務所 福岡普及指導センター

〒819-0371 福岡県福岡市西区飯氏902-1

TEL: 092-806-3400

FAX: 092-806-3367

HP: <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-fukyuusidouusentahtml.html>

E-mail: fukuoka-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

